

デーリー東北
2019年(令和元年)8月1日(木曜日) (14)

10、11日「八戸イカの日」フェス

イカ手袋、ミニのぼり大漁旗作り…

多彩な催し 八工大生提案

八戸工業大(長谷川明学長)は29日、「『八戸イカの日』フェスティバルin浜市場 みなととと」(8月10、11日)で行うイベント企画案の発表会を、同大メディアセンターホールで開いた。感性デザイン学部創生デザイン学科の学生6組が、親子で楽しむ塗り絵や「イカ手袋」作りといった多彩な催し物を提案した。

(工藤文一)



八戸みなと漁協が運営している直売施設の名称公募で、同学科の案が採用されたことが縁となり、両者のコラボレーションが実現。学生側は事前に「みなととと」を見学した上で内容を検討、若者ならではの発想を生かしたアイデアを示した。企画案は塗り絵とイカ手袋作りのほか、女子受けを狙った「海鮮カップケーキ」作り、子ども向けの「八戸ジュニアお魚検定」、希望者を撮影しイカのイラストをあしらったポスターカードに収める「イカ様プリント」、大漁旗をモチーフにした「ミニのぼり大漁旗」制作の4件。関係者は今後、細部を詰め、当日に備える。

イカ手袋作りを提案した尾崎真央さん(21)は「魚食普及を研究しており、イカ手袋のライトアップなどを通じ、若い人たちに『イカの町・八戸』を発信したい」と意気込みを語った。

イベントの開催時間は10、11日とも午前10時～午後3時。入場無料。

「ミニのぼり大漁旗」のサンプルを提示する学生(左)。右奥は高屋喜久子教授